

令和6年度「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」 <秋田県八峰町教育委員会>

(AIの活用による英語教育強化事業/AI英語モデル校事業・AI英語活用リーダー事業)



- ☒ 話すこと ☐ 書くこと ☒ 個に応じた教材の作成や指導の充実 ☒ 授業での活用 ☒ 家庭学習での活用
☒ パフォーマンステストでの活用 ☒ 課外活動での活用

実践のポイント

AIを活用した発音練習と教師の支援が生む対話の変化

実証概要

<校数> 3校(小学校:2校、中学校:1校) <人数> 124名(小学校:43名、中学校:81名)
<学年> 小学校:5・6年、中学校:1・2・3年 <アプリ等> ECC Study Assist(株式会社ECC)

<AI機能について> AI音声認識英会話アプリ:自動音声認識機能により、「発音」「流暢さ」「印象」をそれぞれ5段階評価する。録音・再生機能を生かし、自分の発音をチェックすることも可能。教師は、管理画面で児童生徒の評価や発音を確認することができる。

AIの効果的な活用方法や取り組み (AI英語モデル校事業)

●AIとの練習を実際のコミュニケーションに生かす

その日の授業で扱った英語表現をアプリで反復練習し、自信がついたら友達や教師・ALTと話すことでコミュニケーション能力の育成につなげた。教師は、間違いを恐れず大きな声で話す、相手の顔を見て話す、聞く側は一言返すことなどを学級全体に指導した。

●個別最適な時と場で使う

英語に触れる機会を場所、時間問わず作れたことが、英語を使ってやり取りすること等への抵抗感を下げるにつながった。また、授業とつなげることで連続した学びを作り出すことができた。小学校では、授業の中で今学習しているセンテンスを全体で練習することにより、家庭学習で個々に習熟を図ることができるようにした。教師は、授業中に机間指導で一人一人の発音をチェックした。中学校では、地域未来塾(町営学習塾)で生徒が英会話のコンテンツを各自で選択し、個別練習に取り組んだ。



(小)AIとの練習で自信がついたら、友達や先生と英会話



(中)地域未来塾では、個人または友達と個別練習

実践成果の検証結果 (AI英語モデル校事業)

①児童生徒の英語力の変化

・簡単な単語や文は、自信をもって話せるようになった。
・既習事項を使って、自分のことを英語で言えるようになった。

「AIで話す力が付いた」
小5 100%
小6 92%
中1 86%
中2 87%
中3 67%

→相手の顔を見て話すようになり、しっかり聞いて反応することにもつながった。

②児童生徒の関心・意欲の変化

・発音の評価が上がることに喜びを感じる。
・AIであれば、発音を間違えても恥ずかしくない。

「AIだと緊張せずに話せる」
小5 93%
小6 84%
中1 86%
中2 83%
中3 71%

→上手になりたい、英語で会話したいという気持ちが高まった。

③教師の指導の変化

・AIの評価を取り入れることにより、教師は、困っている子に手厚く指導することができた。
・上位層を待たせることなく、レベルアップにつなげることができた。
→個々の見取りや個に応じた指導がしやすくなった。



丁寧な個別指導

AI英語活用リーダーの育成や普及に関する取り組み (AI英語活用リーダー事業)

●町のリーダー研修会と校内の普及活動

・町のAI英語活用リーダー研修会で、各校の取組や参考にしたい実践、共通実践事項等について協議した。その他に、先進地視察やAI活用教員研修も実施した。
・校内で、下学年にAIを活用した授業を参観してもらった。
・県教委主催の「ICTを活用した授業力向上事業」の中で、モデル校におけるAIを活用した英語教育の有用性について、県内のICTリーダーに紹介した。



多くの教員が参加したAI活用研修

事業全体を通じた成果や課題、今後の取り組み (AI英語モデル校事業・AI英語活用リーダー事業)

- 【成果】 教師の評価とAIによる瞬時の評価を組み合わせることで、自分の発音に自信をもつ子が増えたように感じる。教師は、相手の顔を見て話すことを指導したり、質問を返したりすることで、コミュニケーション能力の育成につなげた。
- 【課題】 普段からコミュニケーションを行う目的や場所、状況などを意識させ、既習の表現を活用しながら、自分自身のことや身近な事柄に関連付けて英語で表現できるようにする指導の工夫が必要である。
- 【今後】 園・小・中を通して英語教育が系統的に行われるよう、町としての長期的な計画を立案し、AIの効果的な活用を模索していく。